

那覇軍港地権者等合意形成活動支援業務

報告書

(概要版)

令和5年3月

那覇市

目 次

1. 業務の概要	1
(1) 業務目的	1
(2) 業務範囲	1
(3) 業務フロー.....	2
2. 地権者等合意形成活動の取り組み	3
(1) 次世代の会の定例会の開催.....	3
①第 54 回定例会	7
②第 55 回定例会	10
③第 56 回定例会	13
④第 57 回定例会	15
⑤第 58 回定例会	17
⑥第 59 回定例会（フィールドワーク）	19
⑦第 60 回定例会	27
(2) 情報誌（がじゃんびら通信）の発行	30
3. 今後の取り組みについて	33

1. 業務の概要

1. 業務の概要

(1) 業務目的

那覇軍港（那覇港湾施設）は、平成 25 年 4 月の「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」で、返還条件が満たされ、返還のための必要な手続きの完了後、2028 年度又はその後返還が可能と返還時期が明示されており、返還後の跡地利用に向けた取り組みを着実に実施するとともに、地権者との合意形成活動を着実に進めていく必要がある。

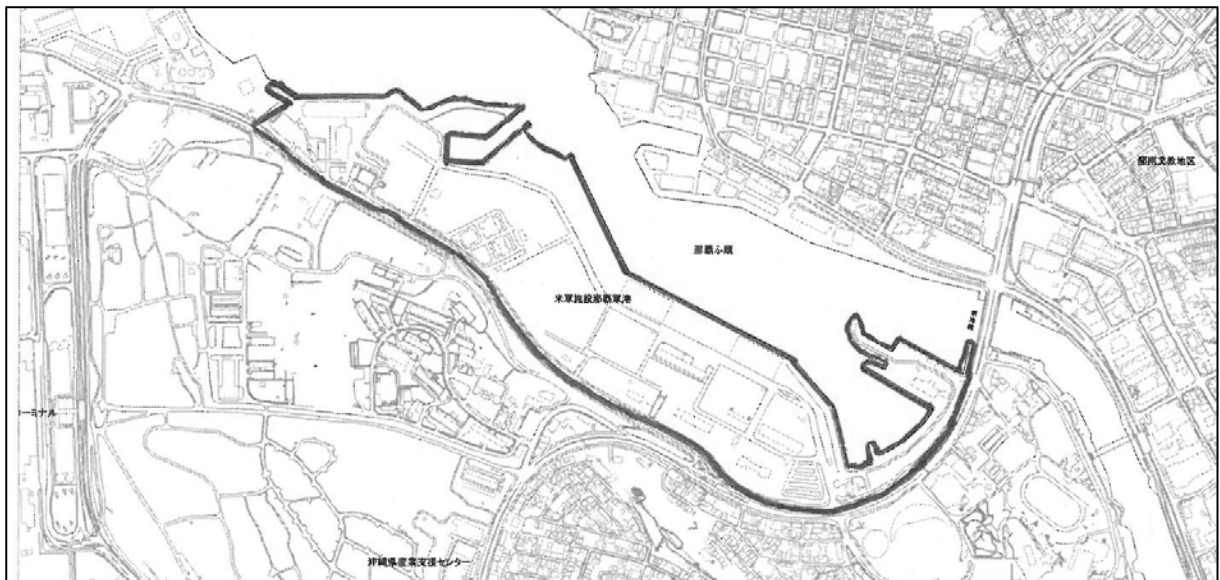
平成 27 年度において、第 2 ステージ（跡地利用方針・基本計画・事業計画段階）への移行に向け、有識者、地権者、行政等による合意形成活動推進委員会において検討を行い、その検討結果を踏まえ、平成 28 年度より第 2 ステージに移行し、計画づくりに取り組むこととなった。

そのことから、平成 28 年度には、第 2 ステージにおける具体的な取り組みを整理し、跡地利用計画策定にかかる検討体制、プロセス、合意形成活動などをまとめた那覇軍港跡地利用計画策定手順書（原案）を作成し、平成 29 年度には、跡地利用計画検討の準備として、関連計画及び周辺動向などを開発条件として整理している。

今年度（令和 4 年度）については、これまで行ってきた地権者等との合意形成活動を中断することなく継続することとする。

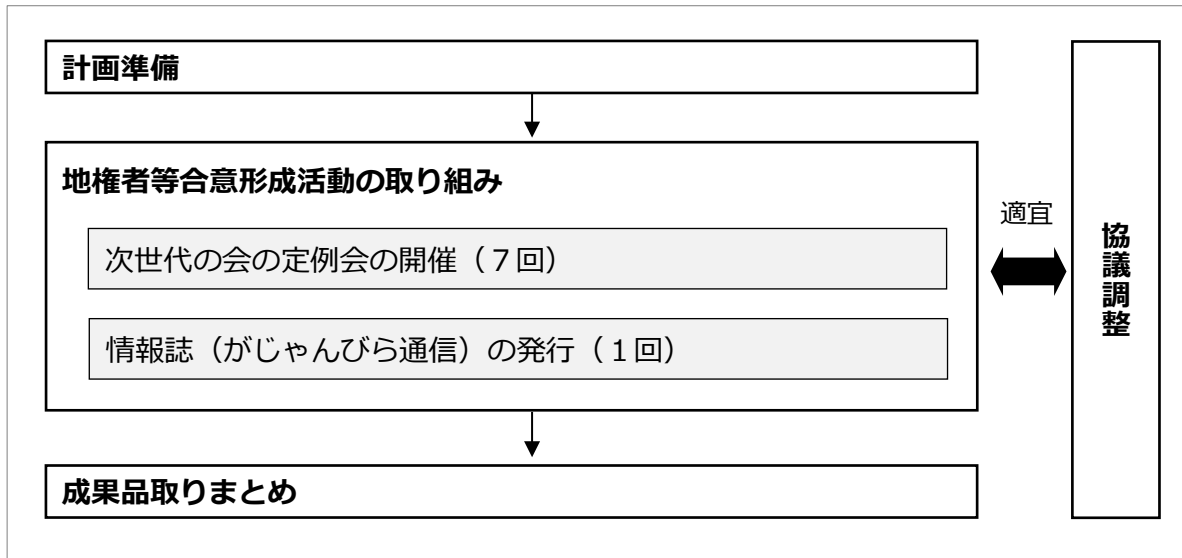
(2) 業務範囲

本業務の対象区域は、那覇港湾施設（約 55.9ha）とする。



(3) 業務フロー

本業務は、以下のフローにより実施する。



2. 地権者等合意形成活動の取り組み

2. 地権者等合意形成活動の取り組み

地権者主役のまちづくりに向けて、これまで実施してきた地権者等との合意形成活動を継続して実施した。

(1) 次世代の会の定例会の開催

1) 開催概要

若い世代の組織が、那覇軍港の将来のまちづくりについて、若い世代の立場からの意見交換や検討する場として、「次世代の会」の定例会を以下のとおり開催した。

●「那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会」定例会

日 時：毎月第2木曜日 18時30分～20時00分（原則）

場 所：那覇市役所本庁舎5階 庁議室

定例会の内容：

今年度回数	通算回数	開催日	主な内容
①	第54回定例会	令和4年 5月19日（木）	・今年度の活動について ・地域資源活用のまとめ
②	第55回定例会	令和4年 7月14日（木）	・地域資源活用のおさらい ・今後の活動について
③	第56回定例会	令和4年 9月15日（木）	・地域資源活用のおさらい ・今後の活動について
④	第57回定例会	令和4年 11月10日（木）	・今後のスケジュールについて ・今後の活動について
⑤	第58回定例会	令和4年 12月8日（木）	・今後の活動について ・フィールドワークについて
⑥	第59回定例会 フィールドワーク	令和5年 1月14日（土）	・道の駅ぎのざ視察
⑦	第60回定例会	令和5年 2月22日（水）	・フィールドワークの振り返り ・手順書について ・次年度に向けて ・がじゃんびら通信について

〈定例会の様子〉



〈フィールドワークの様子〉



2) 成果と課題

<成果>

「那覇軍港における地域資源を活用したまちづくりの考え方」のまとめが完了

- ・平成 29 年度より検討してきた地域資源の 9 つのテーマ（歴史、文化、自然、交通、港、周辺、位置、土地、人）についての検討結果をもとに成果のブラッシュアップを行い、那覇軍港における地域資源を活用したまちづくりの考え方についてまとめた。

メンバーの主体的な意見による今後の活動テーマの設定

- ・メンバーからの主体的な案や意見により、今後の活動テーマが決まった。
- ・今後のテーマについては、知識習得の観点から、事業手法などについて「跡地まちづくりに向けた勉強、意見交換」を行うこととなった。また、あわせて「跡地まちづくりに向けた検討」として、跡地まちづくりイメージの可視化、地区と周辺のまちづくりの考え方についてワークショップ形式で活動することとなった。

フィールドワークによるまちづくりに関する知識習得

- ・フィールドワークによって、施設整備から施設の維持・運営のほか、周辺との連携、公民連携に関する取組み事例を知ることができ、今後の「跡地まちづくりに向けた検討」につながる知見を深めた。

<課題>

学習や視察等の積極的・計画的・継続的な実施

- ・次年度の活動については、今年度設定した活動テーマの取組みを進めることが必要である。なお、設定した内容については、状況変化にも対応した内容となるよう、社会情勢や活動状況等に応じ、適宜柔軟に調整することが重要である。
- ・メンバーによっては加入時期が異なるため、跡地利用について共通認識を持ち、メンバー全員が積極的に発言できるよう、これまでの活動内容や跡地まちづくりに関する情報共有が必要である。

次世代の会による那覇軍港における地域資源を活用したまちづくりの考え方（まとめ）

次世代の会による那覇軍港における地域資源を活用したまちづくりの考え方（まとめ）



3) 定例会の議事概要

①第54回定例会

1. 開会

- ・那覇市より跡地利用計画作成に向けた取組み経緯及び状況、那覇軍港の移転を取り巻く状況、今年度の体制について報告を行った。
- ・跡地利用計画の策定主体はどこになるのか。
→跡地利用計画の策定主体是那覇市である。策定にあたっては、手順書において地主、関係機関及び有識者を入れた委員会を設置して検討を行うことになっている。地主会の準備が整い次第、委員会を始めることを予定している。(那覇市)
- ・跡地利用計画の策定に関して次世代の会の位置づけを確認したい。
→跡地利用計画の検討・作成組織となる策定委員会は有識者、地主会、関係機関、那覇市、那覇市附属機関で構成されており、次世代の会については位置づけていない。
ただし、策定委員会には地主会が入っており、地主会には垣花未来創造会やアジア国際平和経済検討委員会等の組織がある。次世代の会は、那覇市が地主会に呼びかけて了承を受けて活動している組織であり、地主会が垣花未来創造会やそのOB等から選出したメンバーにて活動している。そのため、跡地利用計画には次世代の会の意見を反映することはできると考えている。(那覇市)
- ・過去の資料にて、次世代の会是那覇市に対して次世代の会の考え方を発信すると記載されていたが、次世代の会の役割について確認したい。
→次世代の会に特命事項はない。那覇市では跡地利用に向けた合意形成にあたり、次の世代を担う方との意見交換は重要であると考えている。那覇市では、これまで次世代の会の皆様と意見交換を行っているため、その皆様のご意見は跡地利用計画に反映できるものと考えている。(那覇市)

2. これまでの振り返り

- ・これまでの活動経緯について、活動の記録(資料①)にて内容を確認した。
- ・第53回定例会議事録(資料②、参考資料①)にて内容を確認した。内容について了承いただいた。

3. 意見交換

(1) 今年度の活動について

(2) 地域資源活用のまとめ

- ・令和4年度次世代の会活動計画(案)(資料②)、地域資源活用のまとめ(資料②)について意見交換を行った。

<今年度のテーマについて>

- ・9つの地域資源(自然、歴史、文化、港、交通、周辺、位置、土地、人)については、全て検討が終わったという理解で良いか。
→まちづくりに期待するテーマの検討を見据えて地域資源の活用を検討していたが、9つの地域資源の活用アイデアについては、一旦全て検討を終えたところである。

・9つの地域資源の活用検討により、10個のまちづくりの考え方が導き出された。今年度のテーマについて、次の段階ではこの10個について検討していくと良いということか。

→全ての項目について検討する余地はあると考えるが、項目を絞って検討することも考えられる。また、今年度全てのテーマを検討するのではなく、数年かけて検討していくことも考えられる。

・新型コロナウイルスの感染拡大により1年間活動ができなかったこともあるので、今年度1～2回はこれまでの復習をしても良いのではないか。1年のブランクがある中で議論の続きを進めることは難しいと思う。

・令和2年度の会の最後で参考資料①が出されており、今回、資料④で地域資源がまとめられている。このまとめがとても重要であると思う。後戻りして議論することはあまり良くないと思うので、復習したい気持ちも理解できるが、それは各自で行い、次回は具体的な議論をすると良いと思う。参考資料①は、令和3年度に検討した位置・土地・人の内容のまとめだが、過年度にまとめた資料についても次回もう一度提示して頂き、今年度何を議論していくか考えたい。

→次回の定例会では過年度の地域資源の検討結果配布する。今後の検討テーマについては、ご意見の通り、過年度の成果の振り返りを踏まえて議論していくことが考えられる。

・まちづくりの考え方の「②ヒト・モノなどの外からの流れをつくる」と「⑤人を呼び込む」は類似する内容であると思う。

→まちづくりの考え方は、年度ごとに検討した結果から整理したため、類似する内容はあると思う。この10個を再度整理した上で各項目について具体的な検討をしていくことも考えられる。

・これまで議論の間口は広げてきた。周辺や沖縄全体を見て観光等の視点から求められる要素やニーズ等について勉強する必要があると思う。

→まちづくりの考え方の「②ヒト・モノなどの外からの流れをつくる」や「④収益を生む」、「⑤人を呼び込む」等を検討する中で、沖縄に求められる要素についても検討することとなることが予想される。

・次回は地域資源活用の振り返りを行いながら、今後の議論のテーマについて意見交換する方向で良いか。

→了承。

<活動計画について>

・資料③の那覇軍港の跡地利用に向けた取り組みに「次世代の会より発信」という文言を入れて欲しい。

→了承した。

・これまで定例会は月1回を原則としていたが、年5回となった理由について確認したい。

→今年度の意向醸成活動については、勉強会5回、次世代の会5回を予定していた。それについて地主会と調整した結果、次世代の会については再開を了承いただいたという経緯がある。(市)

<その他>

・沖縄県では新たな振興計画がスタートした。素案では那覇港湾施設について、「臨空・臨港型産業の集積」「スポーツコンベンション」「ウォーターフロントを」という文言があった。垣花未来創造会では跡地利用について「臨港・臨空型産業の集積」という考え方は持っていないため、今後の動向を気にしている。

・移転先の動きについて、2028年度の返還の実現性を踏まえて教えて頂きたい。

→返還時期についての明示は沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画のみで示されており、2028年度又はその後となっている。一方で、移設先の埋立は環境影響評価後に始まるため、現時点から動いたと

しても返還には15年以上かかることが予想され、2028年度の返還は難しいと考えている。(市)

- ・次世代の会の位置づけについて、次世代の会は、全面に出ていく組織ではないとされているが、地主会と共通認識として図る必要があると考える。

⇒次回はこれまでの地域資源の活用検討結果について振り返りを行う。今後の活動テーマについては次回の活動を踏まえて検討する。

4. 次回の日程について

- ・時間が空くと内容を忘れてしまうため、次回は6月に開催することも考えられる。
 - ・今年度の定例会は全5回となっているため、次回は7月とすることも考えられる。
- 次回の日程については、那覇市と調整次第、昭和(株)よりメールにて連絡する。

⇒次回の日程については、調整次第メールにて連絡する。

5. 閉会

以上

②第 55 回定例会

1. 開会

2. 前回の振り返り

- ・第 54 回定例会議事録（資料①、参考資料①）にて内容を確認した。内容について了承いただいた。

3. 意見交換

（1）地域資源活用のおさらい

＜全体について＞

- ・地域資源を活用したまちづくりの考え方（資料②）について、各年度の整理内容を統一すると良い。統一にあたっては、平成 30 年度の歴史資源及び文化資源のまとめのように、分類するための切り口や活用の視点についても整理すると良い。

→了承した。（昭和）

＜歴史・文化資源について＞

- ・資料②の表の「資源」について、他の資源では「活用する資源」と記載されているが、「資源」と記載されている。表現について工夫する必要があると感じた。
- ・御物城は私有地であり、垣花の住民でない方が所有していると聞いている。
- ・垣花のハーリーについて現在は所有していない。

＜交通・港・周辺資源について＞

- ・資料②の BRT の記載について確認してほしい。資料③の「⑦周辺とつながる」の写真は、LRT となっている。

→資料②の記載について、LRT の場合、軌道整備に費用がかかってしまうため、当時の検討にて BRT が挙げられたことが推測される。資料③の写真を BRT に差し替える。（昭和）

＜位置・土地・人について＞

- ・那覇軍港は約半分が公有地で残り半分が地権者の土地である。近年、安全保障や災害に対する意識の高まりがある。そのため、様々な危険から人命を守るシェルター式のハード整備（地下の活用等）があると良いと考え、行政と一緒に検討していく必要があると考える。

→整備に関しては、地主会や行政のそれぞれの考えをたたき台として持ち寄って、計画の進め方を検討していくことが大事であると考えている。（昭和）

＜地域資源を活用したまちづくりの考え方（まとめ）（資料③）について＞

- ・「取り組みにあたって」について、これまでの活動の流れが見てすぐに分かるよう、地域資源の検討や掘り起こしについても記載すると、より理解が深まると感じた。

→地域資源の検討や掘り起こしについて追記する。（昭和）

- ・「地域資源を活用したまちづくりの考え方」について、現在の内容で良いと感じる。今年度の検討では、考え方についてより検討を深めていけると良いと考える。

- ・「取り組みにあたって」の項目の中にある、「その実現に向けた地権者等の参加手法等の検討」についてはこれまでの活動の中で記載していたか。

- ・地権者等の参加手法等について具体的に何を示しているのかわからない。

→他組織との意見交換会の際の資料において「地権者はどう参加できるのか」と記載していた内容が該当する。

本資料ではそれがどういうことかわかりやすくするために言い換えさせていただいた。表現については誤認されないよう再度検討する。(昭和)

(2) 今後の活動について

<会の開催目的、発足意義について>

- ・会の発足当時、次世代の会はまちづくりに関する勉強が主目的であり、地主会に対して次世代の会が意見をすることはなかった。その後、地主会との勉強会の中で、一緒に話し合いに参加してもいいのではないかと意見が出たことで地主会とともに、次世代の会も意見を言うことができるようになったと認識している。
- ・発足意義に「次の世代が今後のまちづくりの主役」とあるが、地主会より次世代の会が主役と誤認されるおそれがある。
- ・地主会のご高齢の方が多いので、跡地利用の頃には次世代の会が中心となっているであろうということで、知識習得のために会を始め立ち上げたのが初めの頃の目的だったと思う。そして、次世代の会は視野を広げて自由に検討ができる組織であると思う。

→発足意義について、次世代の会が「今」のまちづくりの主役ということではなく、次世代の会が「今後」のまちづくりの主役となっていかなければならないという認識である。(昭和)

→勉強会についても、地主会に次世代の会から意見をするというのではなく、次世代の会の発信は那覇市に対して行っているという認識である。(昭和)

<令和4年度活動の視点について>

- ・今年度は、資料③の「地域資源を活用したまちづくりの考え方」について、まず類似する内容をまとめ、具体的な検討をしていく方向とすると良い。

<活動内容について>

- ・資料④の活動内容について、記載されている項目を今後活動で目指していく行程として理解して良いのか。最終的には企業誘致まで進めるのか。

→活動内容については、会で議論するにあたり重要視する項目を挙げている。

「企業誘致」に関しては、中長期的に考え進めるべき話であると考えている。なお企業誘致の議論では、同時に土地活用や施設の内容にも踏み込んでいく可能性もあることから、必ずしも記載の順番で進める必要はないと考えている。

「人づくり」については、資料③の「取り組みにあたって」に記載している「その実現に向けた地権者等の参加手法等の検討」と概ね同様の内容になると考えられる。

まずは、地域資源の面からどのようなまちづくりが良いのかテーマを考えていき、そのテーマについて次世代の会の皆様を中心としてどのように実現していくかを考え、そこに役立ってくださる企業を誘致するところまで議論できたら理想であるという意見のもとに作成されたと認識している。(昭和)

➡次回の定例会では、本日の意見を踏まえた資料(資料②、資料③を更新)をもとに、地域資源を活用したまちづくりの考え方(まとめ)について議論する。

⇒今年度の活動は、地域資源のまとめをさらにブラッシュアップし、その後のテーマ検討に向けてまちづくりの考え方を深堀していく。

4. 次回の日程について

・次回の日程については、9月は第3週の15日を予定する。

5. 閉会

以上

③第 56 回定例会

1. 開会

2. 前回の振り返り

- ・第 55 回定例会議事録（資料①、資料②）にて内容を確認した。内容について了承いただいた。

3. 意見交換

(1) 地域資源活用のおさらい

〈地域資源活用の整理について〉

- ・歴史資源について、臨海寺と袋中寺は現在個人で運営しているが、住吉神社は垣花村で運営している。そのため、運営主体の違いの観点から、臨海寺・袋中寺と住吉神社の記載は差別化するといい。
- ・文化資源の必要となる施設・設備・仕掛けの「ハーリー船の保管スペース」について、現在垣花ではハーリー船を所有していないが、エンターテインメント機能の一つとしてハーリーを導入することが考えられる。
- ・文化資源の蚕と Panama 帽については異なる資源であることから、分けて記載するとともに、特徴についても追記した方がいい。蚕に関しては、戦前は屋根裏で蚕の繭から糸を取り、織物をつくっていたと聞いている。
- ・土地資源の必要となる施設・設備・仕掛けの「避難施設」について、特に台風の際に宿泊や過ごし方等に困っている観光客の受け皿となる施設を目指すといい。
- ・台風時の観光客の受入施設があるといい。

〈活用の視点について〉

- ・「⑩那覇の都市機能を補完する」に港やマリナー機能に関する内容を追記するといい。
- ・ビジネスに関する内容が不足しているため、「⑨新たな魅力を創造する」にビジネスに関する要素を追記する
といい。

〈地域資源の取り組み経緯について〉

- ・まちづくりの考え方の議論に向けた検討の流れについて、「地域資源をどう活用するか」と「まちづくりに何を期待するか」は並列に感じる。
- 地域資源活用の検討では、資源の使い方や仕掛け等についてもアイデアをいただいている。まちづくりに期待することのヒントもある程度これまで出てきているので、今後それを深掘りし、テーマ検討につなげていくことが考えられる。(昭和)
- ・これまでの地域資源の活用結果をもとに次の検討に入っていくと思うが、通常であるとまちづくりのコンセプトを踏まえて地域資源の活用を検討することとなると思う。今回の検討にあたってまちづくりのコンセプトはあったのか。
- まちづくりのコンセプトはこれからつくっていくこととなる。(昭和)

〈資料②、資料③のレイアウト等について〉

- ・資料②の活用の視点のレイアウトについて、視点ごとに内容を囲うなど、視覚的にわかりやすい資料となるよう工夫する
といい。
- ・これまでの活動の流れがわかりやすくなるよう、検討内容ごとに実施した年度を追記する
といい。

(2) 今後の活動について

〈会の開催目的、発足意義について〉

- ・会の発足当時、次世代の会はまちづくりに関する勉強が主目的であり、地主会に対して次世代の会が意見をすることはなかった。その後、地主会との勉強会の中で、一緒に話し合いに参加してもいいのではないかと意見が出たことで地主会とともに、次世代の会も意見を言うことができるようになったと認識している。
 - ・発足意義に「次の世代が今後のまちづくりの主役」とあるが、地主会より次世代の会が主役と誤認されるおそれがある。
 - ・地主会のご高齢の方が多いので、跡地利用の頃には次世代の会が中心となっているであろうということで、知識習得のために会を立ち上げたのが当初の目的だったと思う。そして、次世代の会は視野を広げて自由に検討ができる組織であると思う。
- 発足意義について、次世代の会が「今」のまちづくりの主役ということではなく、次世代の会が「今後」のまちづくりの主役となっていかなければならないという認識である。(昭和)
- 勉強会についても、地主会に次世代の会から意見をすることではなく、次世代の会の発信は那覇市に対して行っているという認識である。(昭和)

〈令和4年度活動の視点について〉

- ・今年度は、資料③の「地域資源を活用したまちづくりの考え方」について、まず類似する内容をまとめ、具体的な検討をしていく方向とすると良い。

〈活動内容について〉

- ・資料④の活動内容について、記載されている項目を今後活動で目指していく行程として理解して良いのか。最終的には企業誘致まで進めるのか。
- 活動内容については、会で議論するにあたり重要視する項目を挙げている。
- 「企業誘致」に関しては、中長期的に考え進めるべき話であると考えている。なお企業誘致の議論では、同時に土地活用や施設の内容にも踏み込んでいく可能性もあることから、必ずしも記載の順番で進める必要はないと考えている。
- 「人づくり」については、資料③の「取り組みにあたって」に記載している「その実現に向けた地権者等の参加手法等の検討」と概ね同様の内容になると考えられる。
- まずは、地域資源の面からどのようなまちづくりが良いのかテーマを考えていき、そのテーマについて次世代の会の皆様を中心としてどのように実現していくかを考え、そこに有益となる企業を誘致するところまで議論できると理想であるという意見のもとに作成されたと認識している。(昭和)

- ➡次回の定例会では、本日の意見を踏まえた資料（資料②、資料③を更新）をもとに、地域資源を活用したまちづくりの考え方（まとめ）について最終とりまとめをする。
- ➡今後の活動については、地域資源を活用したまちづくりの考え方の深掘りを念頭に引き続き意見交換を行う。

4. 次回の日程について

- ・次回は11月10日(木)18時～を予定する。

5. 閉会

以上

④第 57 回定例会

1. 開会

2. 前回の振り返り

- ・第 56 回定例会議事録（資料①、資料②、参考資料）にて内容を確認した。
- ・資料②について、新型コロナウイルスの影響による中止期間についても記載すると良い。また、次世代の会の沿革について、別のページに入れると良い。
- ・参考資料の歴史資源について、住吉神社の維持管理が垣花村とあるが、垣花三町が正しい。文化資源について、泡盛の酒造場は津波古酒造場のほかにも、当間酒造がある。
- ・資料については今後も引き続き更新し、充実させると良いと思う。
- ・途中から参加したメンバーに対しては、これまでの活動内容についてメンバー同士でレクチャーしていくことで、次世代の会の取組が継承されていくと思う。

➡**地域資源活用のおまとめについて、地域資源に関する情報の更新と会の取組経緯について追記する。**

3. 意見交換

(1) 今後のスケジュールについて

<定例会の日程調整について>

- ・新型コロナウイルスが落ち着いてきたことから、今年度の定例会を 2 回増やすこととなった。うち 1 回は県内フィールドワークを予定する。
- ・今年度の今後の定例会については、12 月 8 日（木）、2 月 9 日（木）を予定する。なお、2 月の定例会はフィールドワークの日程を踏まえ、今後調整する。

<フィールドワークについて>

- ・フィールドワーク先については、令和 2 年度に予定していた道の駅ぎのぎを予定する。なお、時間に余裕があれば、平成 25 年度に視察したギンバル訓練場跡地の現況を確認する。
- ・日程については、1 月の土日を目安に、先方の予定を踏まえて決定する。

➡**今年度の今後の定例会は 12 月 8 日（木）、2 月 9 日（木）を予定する。**

➡**フィールドワークは道の駅ぎのぎを予定する。日程については、1 月の土日を目安に調整を行う。**

(2) 今後の活動について

- ・将来的には、次世代の会の考えを発信できるもの（大きな図面や模型など）があっても良いと思う。
- ・検討事項について、地域資源の検討は出し切ったので、次の段階に進んだ方が良いと思う。机上の意見交換だけでなく、ワークショップ形式で自分たちで手を動かして検討したい。
- ・60 代くらいの将来の地権者は、那覇軍港の跡地利用に向けた地主会や次世代の会の取組について知らない人が多い。そのような人たちにも跡地まちづくりについて広めていく必要があると思う。
- ・次世代の会が活動の報告を行うことは立場上むずかしいが、次世代の会は将来の地主として、まちづくりの提案をしていく役割があると思う。那覇軍港の跡地利用について伝えていくのは、地主会になってくると思

う。ただ、垣花の組織である垣花未来創造会に次世代の会の取組を知ってもらうことは良いと思う。地主会に相談した上で検討すると良いと思う。

- ・次世代の会は策定委員会に参加することはできないが、那覇市の呼びかけで集まっている組織であり、アジア委員会といった地主会の跡地利用に向けた取組みにも関わっているメンバーもいることから、次世代の会の考えはいずれ収束していくと思う。今後、地主等とワークショップがあった際、次世代の会がファシリテーターとなっていくことも考えられる。
 - ・次世代の会は那覇軍港の跡地利用について自由に話せる場である。皆の話がいずれ形になっていくと良い。
- ➡跡地まちづくりに向けた検討については、ワークショップ形式で検討する方向とする。検討内容については、次回意見交換を行う。

4. 次回の日程について

- ・次回は12月8日(木)18時～を予定する。

5. 閉会

以上

⑤第 58 回定例会

1. 開会

2. 前回の振り返り

・第 57 回定例会議事録（資料①、参考資料①～③）にて内容を確認した。

・資料①について、念のため当間酒造の表記を確認して欲しい。

→※確認したところ、表記は「当間酒造」であった。

・資料①の「(2) 今後の活動の中」で、「次世代の会の考えはいずれ収束」という表現となっているが、一つにまとまっていくことを意図した「収斂」としてほしい。

・参考資料③の「組織立ち上げ経緯」について、次世代の考えを発信していく旨を追記すると良い。

⇒上記内容について修正する。

3. 意見交換

(1) 今後の活動について

<今後のスケジュールについて>

・次回の定例会は 1月14日（土）午後にフィールドワークを予定する。

・次々回の定例会は市議会のスケジュールの関係から、2月22日（水）18:30～に変更する。

<跡地まちづくりに向けた勉強、意見交換>

①手順書

・手順書が作成されてから数年経過しており、次の跡地まちづくりの検討テーマに入る前に、跡地利用の作成の進め方や体制等について改めて確認する。

・手順書を事前にメンバーに配布し、2月の定例会で意見交換する。

②事業手法

・事業手法の勉強をしつつ、派生する事業があったらそれも勉強したい。

・地区の特性（面積が狭いが地権者数が多い等）にあった事業手法の勉強がしたい。

・公有地の活用事例について勉強したい。

・権利変換に伴う保留床について勉強したい。その際、そのようになった経緯やメリット・デメリット等についてもあわせて知りたい。

③まちづくりの最新動向、ウォーターフロントのまちづくり事例

・事業手法の勉強や跡地まちづくりに向けた検討を進めていく中で、状況に応じて勉強する。

<跡地まちづくりに向けた検討>

①検討内容について

・まずは、「地区内の跡地まちづくりのイメージの可視化」を行う。

・その次のステップとして、「地区と周辺のまちづくりの考え方」について検討していくことが考えられる。

②検討の進め方

- ・まずは、前提条件（地主会アジア委員会の跡地利用構想 等）をもとに、道路等のまちの骨格を検討する。そして、その骨格を踏まえて地域資源の検討等で挙げってきた導入機能など配置していくことが考えられる。

(2) フィールドワークについて

- ・1月14日（土）午後に道の駅ぎのぎを予定する。
- ・具体的な行程については、先方と調整次第、メールにて連絡する。
- ・ギンバル訓練場跡地の立ち寄りについては、スケジュールを踏まえて検討する。

⇒今後のスケジュールについて、**次回の定例会は1月14日（土）にフィールドワーク、次々回の定例会は2月22日（水）を予定する。**

⇒跡地まちづくりに向けた勉強、意見交換について、2月の定例会では手順書の内容について確認し、事業手法については次年度以降に知識習得・意見交換を進めていく。

⇒今後の跡地まちづくりに向けた検討は「地区内の跡地まちづくりのイメージの可視化」をテーマとし、前提条件等を踏まえながら検討していく。

4. 次回の日程について

- ・次回の定例会は1月14日(土)午後にフィールドワークを予定する。
- ・次々回の定例会は2月22日（水）18：30～に変更する。

5. 閉会

以上

⑥第 59 回定例会（フィールドワーク）

1. 開会

2. 挨拶

3. 訪問先紹介

«宜野座村役場» 観光商工課（仲間課長、島袋課長補佐）・建設課（島袋課長）

«未来ぎのぞ» 新垣所長

«宜野座村観光協会» 仲間事務局長

4. 講義

・宜野座村観光協会 仲間事務局長

【宜野座村について】

- 宜野座村はコンパクトな村（行政区 6 区、人口約 6 千人）である。
- 村の魅力として、「自然環境」「伝統文化・芸能がさかん」「自然の恵みを生かした特産品」「子育てのしやすさ」「スポーツレクリエーションの充実した施設」「コミュニティのつながりが強い村」が挙げられる。
- 村の 5 割（50.7%）は米軍基地に占められているため、土地が限られている。
- 村の地域資源として、鍾乳洞、いちご、5 つのダム、朝日が挙げられる。
- 村内の観光施設に関しては、ゴルフ場やホテル、海洋深層水を活用したタラソ施設、ペンション・民宿等がある。

【リニューアルの経緯について】

- 平成 10 年に加工直売センターがオープンし、平成 26 年に道の駅に登録された。
- フリーマーケットをしていた場所に拠点施設を整備し、平成 30 年にリニューアルオープンした。
- 本来、道の駅は安全で快適な交通環境の提供のほか、地域のにぎわい創出を目的としている。道の駅ぎのぞは、地域福祉（地産地消施設整備による住民サービスの向上）や産業振興（宜野座野菜の付加価値の向上）、交流・連携（ダム・ツーリズムとの連携による地域活性化）の理由から、平成 27 年度に重点「道の駅」に選定された。これは沖縄県内初である。
- 新しく整備したエリアの事業費は 22 億円であり、用地取得や駐車場整備、護岸整備、観光情報センター整備、ぎ〜のくんランド整備などを行った。

【コンセプト等について】

- コンセプトは「3 世代（親・子・孫）で楽しめる道の駅」である。
- 地域が誇れる道の駅「ぎのぞ」を目指している。

【運営体制について】

- 宜野座村の副村長が駅長、観光商工課が所管となり、宜野座村（行政）と未来ぎのぞ（民間）、宜野座村観光協会（外郭団体）等が一体となって道の駅の運営に取り組んでいる。
- 村と未来ぎのぞ、観光協会の三者で週 1 回定例会を行い、密な連携を図っている。

- 未来ぎのざは主に農産物等の直売センター管理のほか、駐車場管理、テナント管理等を担っている。
- 観光協会は拠点施設管理や、道の駅の窓口業務、テナント管理、修学旅行受入、ケータリング事業等を担っている。
- 運営にあたり、未来ぎのざは所得向上で生産者等の所得を上げていくこと、観光協会は経済効果の波及を会員に生み出すことを役割として、民間・行政・外郭団体が一体となって取り組んでいる。具体的には、観光協会で地域の情報発信をしつつ道の駅の誘客につなげ、直売センターの売り上げを上げていく。未来ぎのざにおいても、直接交流しながら生産を上げていく形で連携して取り組んでいる。
- 未来ぎのざと観光協会あわせて約 40 名のスタッフ（清掃員、レジアルバイト等も含む）で運営している。
- 産地地消に関しては、村内外の給食センターへの原材料卸し、農産物加工品の販路拡大の企画提案（ふるさと納税や郵便局と連携）、農産物の販売促進として地元や姉妹町村（愛媛県内子町）の道の駅と交流・特産品の販売をしている。また、村の旬の農産物を活用し加工品（ケーキ）の製作販売を行っている。

【三者による連携イベントについて】

- 元旦の初日の出では、観光協会では拠点施設の開放、未来ぎのざでは来場者にそばを振る舞った。300 名くらい来場した。
- 観光 PR 物産販売については、年 2～3 回連携して行っている。
- 産業まつりなど、村のイベントを道の駅を活用して実施している。
- 修学旅行生の受入として、ダム・ツーリズムに取り組んでいる。

【来場者数について】

- 駐車場の利用状況や物産センターのレジ通過状況をもとに推計したところ、年間来場者数は 1 年目（平成 30 年度）約 60 万人、3 年目（令和 2 年度、コロナ禍）約 17 万人、4 年目（令和 3 年度）約 57 万人と予想される。令和 4 年度も令和 3 年度と同様の見込みである。

5. 質疑（→：道の駅ぎのざ関係者、●：次世代の会）

【イベント開催について】

- 道の駅ぎのざでは様々なイベントが開催されており、多くの方が訪れていると思うが、イベントの企画はどのような形で検討等されているのか。

→道の駅ぎのざには、観光拠点施設と特産品施設がある。村からの指定管理で観光拠点施設は宜野座村観光協会、特産品施設は未来ぎのざが運営している。イベントについては、一括交付金の事業を活用して観光協会に委託しているイベントと、観光協会独自のイベントがある。（商工観光課 仲間課長）

→道の駅ぎのざを盛り上げるため、道の駅フェスティバル等を開催している。イベントにあたってはテーマを持って取り組んでおり、クリスマスイブについてはイルミネーションをしながらステージライブや花火の打ち上げ等を行った。産業まつりには、農業を意識して未来ぎのざや村と一緒にイベントを企画した。手づくり市に関しては定期的に実施しており、ハンドメイド雑貨等の店が集まるイベントを開催している。そのほか、10 代をターゲットにしたビューティーフェスタ（まつエクなど美容に関するイベント）を開催

する予定である。村内の関係者が主催してターゲットをしぼって実施しているパターンもある。(宜野座村観光協会 仲間事務局長)

- イベントの周知はどのようにしているか。

→道の駅のフェイスブック、インスタグラムのほか、未来ぎのぎのホームページ、観光協会の YouTube やホームページへの掲載にて周知している。(宜野座村観光協会 仲間事務局長)

→以前は商工会フェスティバルと産業まつりを同時に開催していたが、観光拠点施設ができたことで、別々にイベントを開催できるようになった。(商工観光課 島袋課長補佐)

【維持管理費について】

- 那覇でも道の駅ぎのぎの水遊び場の評判がいい。大きな施設の維持管理にあたっては、収益が必要となると思うが、道の駅ぎのぎの水遊び場や遊具は無料開放されている。草刈等の維持管理も必要となると思うが、維持管理費はどこから捻出しているか。

→収入は施設運営費に達していない状況である。道の駅は村内の他の施設への誘導も役割もあるので、役場よりふるさと納税から施設運営を補填している状況である。(商工観光課 仲間課長)

→賃貸からの収益は大きいですが、それだけでは補えないため、カヌー体験や BBQ 等で施設維持費に貢献したいと考えている。(宜野座村観光協会 仲間事務局長)

【駐車場について】

- 来場者が多いが、駐車場は足りているのか。また、交通面で整備後に生じた課題についてお聞きしたい。

→土日は親子連れが多く、駐車場は不足している状況である。そのため、近くの空き地を借用するなどし、対応している。イベント開催時はさらに不足するため、近くの小学校や漢那ダムの駐車場を利用している。次の整備事業の段階では、駐車場の検討もしていきたいと考えている。常に駐車場不足は課題としてある。(商工観光課 仲間課長)

→駐車場について、整備した 78 台では足りず、周辺の用地を地元の方から借用している状況である。道路沿いの公共空地(旧国道の用地)を駐車場にするなど、200 台程度駐車できるスペースを確保した。県内の利用者が多く、沖縄県民はあまり歩かない特徴があるので、施設の近くに配置するよう工夫している。

- 施設のオープニングの際には漢那ダムを活用し、バスで行き来できるようにした。その際、村では全庁的に職員を導入して対応した。オープニングでは 8 万人くらい来場した。その後はオープニングの時以上の来場はないが、これまで通過場所だった宜野座が目的地となったほか、周辺の地価も上がったという効果もあった。(建設課課長 島袋課長)

【プロ野球チームキャンプとの連携について】

- 2 月からプロ野球チームのキャンプが沖縄で始まり、本土の人がたくさん来ると思う。そのような中、来訪者の流れはどのように考えているか。

→特産品を全国の人たちに広められる機会であると考えている。

→キャンプのシーズンはひと月で 10 万人が宜野座を訪れるが、その半分以上が大阪の阪神タイガースのファンである。訪れた人たちが道の駅ぎのぎで消費するような取り組みを模索しているところである。

キャンプ見学を主目的とした来訪者がたくさん来るため、その人たちが道の駅の総合案内所に来てもらい、そこから宜野座村のスポットにも足を運んでもらえるような流れをイメージしている。そのため、総合案内所の運営は観光協会に担ってもらってる。

サイン色紙等を道の駅に展示するなどの取組みをしているが、阪神タイガースのファンは選手を見るのが目的となっており、道の駅ぎのぎにファンを導くことはなかなか難しい。阪神タイガースとの連携も取りながら、引き続き検討していきたい。(商工観光課 仲間課長)

→阪神タイガースとGINOZA ビレッジプロジェクトを立ち上げ、阪神タイガース創立 20 周年の記念のお祝いとともに地域を盛り上げるため、タピックタラソセンター宜野座の一室を阪神一色にしたり、阪神のタオルをプレゼントしたりする計画がある。

ほかにも道の駅では、フラグなどで阪神タイガースのキャンプの盛り上げや、オリジナル雑誌社と連携した阪神カバーセレクションの写真展を考えている。

また、宜野座村出身の前田桜茄選手や阪神タイガース OB とのトークセッションを計画しており、キャンプ後にファンに来てもらえるような仕組みを検討してる。

道の駅では関連グッズの販売もしており、2月の16時以降の施設は阪神ファンであふれている状況である。(宜野座村観光協会 仲間事務局長)

→なお、阪神タイガースとは年に2～3回甲子園の試合のときに観光協会と連携して関係を築いている。(商工観光課 仲間課長)

【村の観光の取組について】

● 漢那ビーチなどの海岸沿いについて、どのような考えで取組みを進めているか。

→漢那ビーチについては、委託会社をお願いして7月～10月までビーチを開き、清掃をお願いしている。昔のような活気はないが、BBQをやったり、外国人が活用したりしているので、引き続き取組みを進めていきたいと考えている。漢那ビーチは東海岸であるため、夏は南風やクラゲの発生などの課題がある。村内のペンションに関しては、シーズンになると予約で満室になる状況ではある。道の駅ぎのぎは、村内の情報も発信しする役割がある。そのため、道の駅ぎのぎは、道の駅に来てもらい、各施設に誘導していく役割があると考えている。(商工観光課 仲間課長)

● 村内において、観光客が泊まれる場所など、人を滞留する取組み等は考えているか。

→道の駅ぎのぎは情報発信の場所でもある。そのため、宿泊場所や遊ぶ場所を道の駅で発信するとともに施設に留まってもらい、周辺施設に人の流れが広がると良いと考えている。(商工観光課 仲間課長)

● 宿泊で村に留まって欲しいとは考えている。宿泊に関しては、高級リゾートホテルが宜野座にできた。小規模宿泊事業者もあるが、まとまった人数が泊まれるホテルは計画が出ては消えというパターンが多い状況であり、村でホテルの誘致はしていない。村の約5割は軍用地であり、使える土地は限られている。宿泊施設は那覇市内にたくさんあるので、ホテル誘致に関しては静観している状況である。それならば、地元で根付きそうな小規模の宿泊所の方がいいのではないかと考えている。(建設課島袋課長)

【道の駅の整備について】

● もともとの道の駅と地域拠点施設のエリア分けについてお聞きしたい。

→平成26年に未来ぎのぎが道の駅に登録された。その時は機能として観光案内とトイレ、休憩所があった。運営については、許田のやんばる物産センターは自治体運営ではなく、国直轄の道の駅であるが、道の駅ぎのぎは宜野座村主体でつくられた道の駅である。地域拠点施設と物産センターも含めたエリアを道の駅として登録している。「道の駅 サンライズひがし」や「道の駅 やんばるパイナップルの丘 安波」も東村や国頭村の直営の道の駅である。(商工観光課 仲間課長)

● 用地買収や整備も村が実施したのか。

→土地はもともと埋立地であり、無地番であった。そのため、土地は国から村が購入した。また、周辺の土地は村有地であった。(建設課 島袋課長)

●観光イベントは一括交付金を活用しているという話だったが、建築費等はどのように捻出しているのか。

→未来ぎのぞは第6次産業に関する補助金、地域拠点施設は一括交付金を活用している。(商工観光課 仲間課長)

【道の駅の管理・運営等について】

●施設整備するとき、入域者の予測をすると思うが、予測と実数の評価についてお聞きしたい。

→指定管理をするにあたり、観光協会が行政や議員に年間100万人を目標とするとプレゼンしていた。当時懐疑的な意見が多かったが、観光客が増加していた時期だったので、目標を年間100万人にした。その中で、初年度は年間60万人だった。ただ、これ以上の来客があった場合、施設のキャパシティや安全面が懸念されるため、施設の管理・運営の観点からは年間60万人くらいが妥当であると考え。(商工観光課 仲間課長)

●施設のキャパシティから見ると、1日5,000~6,000人が限界と考えている。それ以上はひずみが生じてくると考えている。以前、水遊び場で約300人遊んでいたことがあった。その時、水温がぬるかったり、塩素がすぐなくなったりしてしまった。また、遊具も運営2年目でロープが切れたり、3年目に切断のいたずらがあったりと、想定を上回る人に利用されている反面、施設の維持管理に影響が生じた。

平日の来場者(=県内の来客数)をどのように増やしていくかが課題である。新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年は施設を閉鎖したため、来場者数は少なかった。

平成29年度は17万人/年(※レジ通過数のみ)であったが、平成30年度以降は20万人/年に増加した。
(建設課 島袋課長)

●客数について、資料では年間を通して8月が一番多かったが、理由についてお聞きしたい。

→8月は水遊び場があるため、夏休みは毎日、土日のように子ども連れが来ている。(宜野座村観光協会 仲間事務局長)

●車の台数・レジによる推計ということであったが、子どもの数から見ると、もっと人が来ているのではないかな。

→駐車場は1日5回カウントしているが、マイクロバスや観光バスは内訳が不明であるため、カウントしていない。第1駐車場は1台×2.5人、第2駐車場はファミリー層で推計している。(宜野座村観光協会 仲間事務局長)

●2月は阪神タイガースのキャンプが行われるが、来場者数の状況はいかがかな。

→12~3月の来場者数は横ばい傾向となる。年間の推移を見ると、6月が梅雨とゴールデンウィーク明けの影響で来場者数は落ち込む。その後、7~8月で増加する。ピークはゴールデンウィークと8月である。
(宜野座村観光協会 仲間事務局長)

→2~3月は閑散期であるが、村営の道の駅で維持できていることは珍しい。これまでは目的地として選ばれることは今までほぼなかった。しかし、今は道の駅ぎのぞを目的地とする来客数が多いことから、成功事例と言ってもらっている。

横の連携もしっかり村でも行っている。未来ぎのぞも体制が変わり、体制強化しているところなので、今後も引き続き取り組んでいきたい。村としても横の連携をしっかりと組み、未来ぎのぞとともに体制強化しながら今後も引き続き取り組んでいきたい。(建設課 島袋課長)

→道の駅ぎのぞができて、4年を迎えたが、行政と民間、広域的な観光協会が連携して情報等を共有しながら

と一緒に事業を展開していることが、この道の駅の一番の成功だと思う。(宜野座村観光協会 仲間事務局長)



6. 施設見学



施設外観



公園広場



水遊び広場



漢那福地川を望む



食堂、直売センター未来ぎのぞ



展望台

7. 閉会

○ギンバル訓練場跡地見学

平成 29 年度に県内視察したギンバル訓練場（金武町）に立ち寄り、跡地利用の状況を見学した。



金武町屋内運動場（別日撮影）



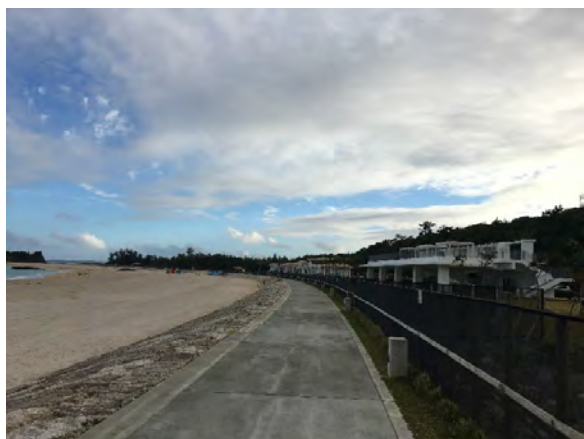
道路（別日撮影）



ギンバル温泉&ホテル「ASBO STAY HOTEL」
（別日撮影）



KIN サンライズビーチ海浜公園①（別日撮影）



KIN サンライズビーチ海浜公園②



KIN サンライズビーチ海浜公園③

⑦第 60 回定例会

1. 開会

2. 前々回の振り返り

- ・第 58 回定例会議事要旨をもとに（資料①、参考資料①）にて内容を確認した。
- 内容について了承した。

3. 意見交換

(1) フィールドワークの振り返り

- ・第 59 回定例会実施概要をもとに（資料②）にてフィールドワークの振り返りを行った。

《整備について》

- ・宜野座村が道の駅ぎのぞを再整備したことで、通過点から目的地になったという話が印象的だった。
- ・村が国から購入した規模や価格について情報収集できると良い。那覇軍港も国有地があるため、勉強になると思う。

《管理・運営について》

- ・宜野座村と未来ぎのぞ、宜野座村観光協会の三者で週 1 回定例会を行っているという点について、柔軟な対応や決定のはやさにつながると感じた。
- ・道の駅ぎのぞでは平日の集客に課題があるとのことだったが、那覇軍港は那覇空港に近いので、平日の集客も一定程度は見込めると思う。
- ・村の補助がないと道の駅の維持管理をしていくことは難しいと感じた。那覇軍港跡地のまちづくりにおいては、施設によっては有料化を検討することも考えられる。

《周辺施設等との連携について》

- ・道の駅ぎのぞとプロ野球チームキャンプの連携がうまくいくといいが、たくさんの方が来ると駐車場のキャパシティを超える懸念があると思う。うまく連携できると、地域の特産品等を PR できる機会になると思う。今後、どのように取り組んでいくのか気になるところである。
- ・県北部な上、宜野座 IC から南下し、右折が必要な箇所であるため、心理的に立ち寄りにくい場所に施設が立地しているが、たくさんの方が訪れており、集客に工夫していることが伺えた。
- ・道の駅ぎのぞとプロ野球チームキャンプ地の間の移動ネットワークについては、電動キックボードなどを使うと良いと思った。
- ・那覇軍港に隣接する奥武山公園においても、読売ジャイアンツが冬季にはキャンプを行っている。那覇軍港跡地のまちづくりにおいては、奥武山公園との移動や、公園からの人の呼び込みに対する工夫など、周辺施設との動線の考え方にも配慮して検討すると良い。また、あわせて地域内の移動手段についてもあわせて考えていく必要があると思う。移動手段の検討にあたっては、マイクロバスなど実証実験をしながら検討していくと良いと思う。
- ・道の駅ぎのぞの近くにある漢那ビーチは高速道路からも近距離であるため、もっと活用すると良いと思った。また、道の駅北側は駐車場として利用していたが、海側ももっと活用すると良いと思った。
- ・道の駅ぎのぞは無料駐車場を確保できているが、那覇市内では駐車場の敷地確保は難しい点は課題となる。そのため、那覇軍港跡地の場合は、モノレールをはじめとした公共交通の活用とともに、地下道の整備など施設と交通が連携することで、駐車場がなくても利用しやすい環境整備が重要であると感じた。

(2) 手順書について

・手順書について改めて内容を確認するため、手順書（資料③）をもとにおさらいを行った。

«基本事項について»

・手順書の策定主体について確認したい。

→「那覇市」が手順書の策定主体となる。なお、跡地利用計画の策定主体も那覇市となるが、地主会と那覇市が一緒に計画を検討していく考えである。（那覇市）

・手順書の修正予定はあるか。

→手順書は跡地利用計画づくりの進め方の考え方の基本を示しており、手順書をもとに計画づくりを行っていくこととなる。修正は予定していない（那覇市）

・手順書は重要な資料だと思う。次世代の会のメンバーは手順書を定例会に携帯すると良い。

・ステージ区分について、現在はどの段階になるのか。

→現在は手順書を策定し、策定委員会の設置に向けて地主会と調整しているところである。（那覇市）

«委員会について»

・跡地利用計画策定委員会プロセス検討部会のメンバー構成について確認したい。

→メンバーは今後決めていく。（那覇市）

«市町村総合整備計画との関連について»

・市町村総合整備計画は、跡地利用計画と同じ内容であるという認識でよいか。

→8 ページの青枠の内容が市町村総合整備計画の内容と同じになる。跡地利用計画は当該項目と同様の構成で作成する。（那覇市）

・市町村総合整備計画を作成した場合、国との調整は不要となるのか。

→策定主体是那覇市となるが、県内においても事例がないため、具体的なことは今後の調整となる。（那覇市）

«手順書の周知について»

・手順書は地権者に浸透していないように感じる。そのため、地権者に周知する機会を設けると良いと思う。

(3) 次年度に向けて

・次年度からの活動について、資料④、参考資料②～③をもとに意見交換を行った。内容について、概ね了承した。

→「跡地まちづくりに向けた勉強、意見交換」について、「市町村総合整備計画」や「給付金」について勉強したい。

(4) がじゃんびら通信について

・がじゃんびら通信 28号の内容案（資料⑤）について確認を行った。内容について、概ね了承した。

→表面の次世代の会の説明について、タイトルを「那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会とは」にすると良い。

→裏面の道の駅ぎのぎの概要について再度確認すると良い。

(5) 資料提供について

- ・メンバーより、「美浜タウンリゾート・アメリカンビレッジ」と「新北部テーマパーク構想」に関する情報提供があった。資料について、会のメンバーに配布した。
- ・本内容の意見交換については、今後の定例会の中で検討する。

4. 次回の日程について

- ・次回は次年度となる。日程等については改めて連絡する。

5. 閉会

以上

(2) 情報誌（がじゃんびら通信）の発行

1) 発行概要

地権者への情報提供と啓発活動を図ることを目的に、情報誌（がじゃんびら通信）を以下のとおり発行した。

●第 28 号

発行月：令和 5 年 3 月

内 容：今年度の活動報告（次世代の会の活動概要報告）

発行数：1,500 部

2) 成果と課題

<成果>

地権者意向を踏まえた情報を提供

- ・合意形成活動支援業務内容について、地権者へ広く周知することができた。

<課題>

より充実した内容と幅広い発信手段による継続発行

- ・地権者等への情報提供手段として、今後も継続して発行していく必要がある。
- ・地権者意向を踏まえ、「土地活用に関する内容（手法や事例等）」や「那覇軍港の周辺動向」についても記載するなど、より充実した情報誌として発行していく必要がある。
- ・引き続き、地権者の親族にも情報が伝達される仕組みなど、幅広く情報発信することが課題として残されている。

がじゃんびら通信 Vol. 28

2023.3 情報誌

那覇軍港の将来のまちづくりに向けて

発行：那覇市 総務部 平和交流・男女参画課 那覇軍港総合対策室

今年度実施しました「次世代の会」の活動概要を報告します。

那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会による 地域資源を活用したまちづくり検討

次世代の会では、平成28年度から令和2年度にかけて、「那覇軍港における地域資源(自然・歴史・文化・交通・港・周辺・位置・土地・人)を活用したまちづくりの考え方」につ

いて検討してきました。今年度はその成果を整理し、考え方についてとりまとめました。

那覇軍港のまちづくりを考える

次世代の会とは

垣花出身の次の世代が集まり、地権者の先達の皆さまが活動していることを引き継げるように、早い段階から将来の那覇軍港のまちづくりを考える準備をしている組織です。

那覇軍港のまちづくりを考える次世代の会による 那覇軍港における地域資源を活用したまちづくりの考え方(まとめ)

H28年度

掘り起
し
地域資源の

那覇軍港の地域資源

那覇軍港の活用資源として下記9つを抽出し、その特徴を整理しました。

自然(海、緑地、空など)	周辺(那覇市街地、奥武山公園、首里城、離島など)
歴史(琉球王国時代の交易拠点、御物城など)	位置(沖縄の玄関口、都市に近接など)
文化(旗頭、泡盛、蚕など)	土地(地区の約半分が公有地、細長く平坦など)
交通(バスターミナル、モラル駅、空港、港など)	人(地域関係者、歴史人物、海人、観光客など)
港(琉球王朝文化の繁栄に貢献、那覇港など)	

H28年度
~
R2年度

活用検討
各地域資源の

地域資源の活用の視点

各地域資源の特徴等から、活動イメージをふくらませ、必要となる施設・設備・仕掛けを考え、地域資源活用の視点をまとめました。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ① ヒト・モノなどが集まり、交流する | ⑧ 収益を生む |
| ② 沖縄の魅力を体感する | ⑨ 人を呼び込む |
| ③ 回遊性を高める | ⑩ 那覇の都市機能を補完する |
| ④ 自然の力を発揮させる | ⑪ 周辺とつながる |
| ⑤ 目的(集まるきっかけ)をつくる | ⑫ ヒト・モノ・情報等を発信する |
| ⑥ 循環をつくる | ⑬ 新たな魅力を創造する |
| ⑦ ヒト・モノなどの外からの流れをつくる | ⑭ 地区のポテンシャルを発揮させる |

R4年度

の
し
た
考
え
方
地域資源を活用

那覇軍港における地域資源を活用したまちづくりの考え方

上記の視点を踏まえ、那覇軍港における地域資源を活用したまちづくりの考え方をまとめました。

- 【あつまる】 県内・国内外のヒト・モノなどが「集まる」「交わる」ための魅力づくり
- 【つなぐ】 地区の中の交流・地区の中と外との交流を高めるネットワークづくり
- 【うみだす】 地区や沖縄の発展に資するヒト・モノなどを生み出す
- 【ひろげる】 地区内や県内、日本各地で生み出したヒト・モノなどを広げる仕掛けづくり

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により活動休止

県内フィールドワーク in道の駅ぎのぞ

令和4年度
の活動報告

那覇軍港の将来のまちづくりにおいて、「交流・交易」や「ウォーターフロント」がキーワードとして挙げられていることを踏まえ、海に面し多世代が訪れる「道の駅ぎのぞ」を訪問しました。

「道の駅ぎのぞ」の概要

「道の駅ぎのぞ」は、宜野座村の地域情報や観光施設・店舗情報などの情報発信・案内のほか、観光（体験・交流型）などの多様なメニューの開発・案内や、スポーツツーリズム、教育学習などの受入対応、広報活動、イベント開催等を行っています。

「3世代（親・子・孫）で楽しめる道の駅」をコンセプトとしており、施設内には、子どもたちが遊べる幼児用施設や水遊び場、大型遊具施設なども設置しているほか、地域の特産品販売等も行っており、地域が誇れる道の駅ぎのぞを目指しています。

視察から得た主な知見

にぎわい創出について

- 各主体との連携や地域らしさを生かした商品販売・イベント開催等により、これまで「通過点だった道の駅」から「道の駅が目的地」に変わった話は印象的だった。
- 平日の来場者を増やすための課題は、跡地まちづくりにおいても共通の課題であると思う。

周辺との連携について

- 地域活性化に向けては、周辺の観光地や施設の特徴も生かすとともに、移動動線にも配慮しながら、連携して取組んでいくことが重要であると感じた。
- 駐車場については、那覇市内の場合は用地確保の困難が予想されることから、歩いて訪れることができるよう、公共交通の整備等も重要であると思った。

施設をつくったあとの運営について

- 行政（宜野座村）と民間（株式会社未来ぎのぞ）、観光協会（宜野座村観光協会）が毎週行っている定例会は、決定のはやさや柔軟な対応につながると思った。

「がじゃんびら通信」の内容及び那覇軍港跡地利用に関するお問い合わせ・ご相談

那覇市 総務部 平和男女交流企画課 那覇軍港総合対策室 担当：脇田、泉、野田

TEL：098-861-6906 FAX：098-861-4092

E-mail: s-heidan001@city.naha.lg.jp

那覇市 軍港

検索

3. 今後の取り組みについて

3. 今後の取り組みについて

那覇市の第5次那覇市総合計画においては、那覇軍港の跡地利用を施策のひとつに掲げ、那覇軍港の特性を活かしたまちをつくるため、地権者との合意形成活動を基礎とした跡地利用計画づくりを進めることとしている。

計画（案）づくりについては、那覇軍港跡地利用計画策定手順書に基づき進めていくこととし、検討をするための組織（跡地利用計画策定委員会）の設置に向け、地主会との調整を進めていくこととする。

また、跡地利用計画策定委員会を設置するまでの当面に活動については、地権者等合意形成活動を継続して実施することとする。

【次年度の地権者等合意形成活動取り組み（案）】

①跡地利用に関する勉強会

- ・地権者自身が那覇軍港の将来構想を検討するために必要となる、跡地利用に関する専門的な知識の習得に向けた勉強会を引き続き開催することが望まれる。

■対象者：那覇軍用地等地主会関係者、次世代の会メンバー

②次世代の会の定例会の開催

- ・那覇軍港の将来のまちづくりについて、若い世代の立場からの意見交換や検討する場として、次世代の会の定例会の継続的な開催が望まれる。

■対象者：次世代の会メンバー

③情報誌（がじゃんびら通信）の発行

- ・地権者への情報提供と啓発活動として継続的に発行している情報誌（がじゃんびら通信）を発行し、跡地利用計画策定に関する情報共有を図ることが望まれる。

■対象者：地権者・関係者